

新年度が始まりました。各塾でも、初めて教壇に立つ「新入先生」が、デビューを果たしたことでしよう。ひとたび教室に入れば、新人であろうが生徒・保護者からは「先生」と呼ばれ、様々な相談を受けたり対応を迫られることになります。生徒から見れば、新人もベテランも関係ないのです。一日も早く塾の業務や授業に慣れてもらうために、本連載では六回にわたり、新入先生の「教師力アップ」のための秘訣をお伝えしていきます。

授業の予習の考え方

ひとことで「授業の準備」と言っても、人によってやり方も様々でしょう。ひたすら問題集の解答を写して授業に臨む人もいれば、せつせと板書ノートを作成する人もいます。

では、新人の先生は、まずはどのように授業の準備をすればいいのでしょうか。

教科によっても違いはあるでしょうが、授業準備・予習を行う際に意識すべきことは、「お客様（生徒）の視点に立つ」という点です。すべての出発点はここにあります。授業の

予習を行う際も、徹底的に「お客様（生徒）の視点に立つ」ことです。

準備段階で授業の流れを考えておく

新人の先生にありがちなのが、ひたすら問題の答えを写しておく、とりあえず板書ノートを作っておく、というやり方でしょう。

しかし、まずやるべきことは、「授業の流れ」を組み立てておくことなのです。導入でどんな話をして惹きつけ、解説に何分、問題演習に何分、という



小林由香（こばやしゆか）

元大手相場学習塾校長。新経営サービス入社後は、新入社員から管理者層まで、幅広く教育研修を展開するほか、人事・賃金制度策定業務を専門分野としてコンサルティング活動を行っている。特に、学習塾出身者ならではの視点で、業界にマッチした人事制度、給与の決め方、講師のモチベーションアップ、アルバイト講師の戦力化などのテーマでのコンサルティング実績は豊富であり、全国に多くのクライアントを持つ。

連絡先
 (株)新経営サービス・
 人事戦略研究所
 TEL. 075-343-0770
 FAX. 075-343-4714
 http://jinji.jp
 E-mail : kobayashi@skg.co.jp

時間配分を考え、準備の段階で宿題まで決めておくことで、慣れるまでは、時間通りに授業を運ぶことが最も難しいからです。また、教室の中には意欲に満ちあふれた生徒ばかりとは限りません。彼らを飽きさせない工夫は、話術ももちろんですが、どういう時間配分で行うかによっても明らかに差が出るからです。

授業で信頼を勝ち取る秘訣は予習にあり!

ここで、秘訣をひとつ。宿題の問題を、あらかじめ「カンニング」しておき、授業の際に

「これはよく出題されるぞ!」「ここがポイントだ!」と

小林由香

強調してお

くのです。授業で習ったことが宿題の問題の中で出て解ければ、「塾で習ったことがわかった」、「塾で習って問題が解けるようになった」と生徒は喜んでくれます。これは、私が新人時代にある先輩から教わったコツなのですが、生徒に「わかった」喜びを感じてもらいたい、生徒をやる気にさせるため、先生の重要な役目であり、「あの先生の言うことは本当によく当たる」と、先生の授業への信頼・評判にもつながるのです。塾は「教育サービス業」です。サービス業である以上、お客様（生徒）に満足感を与える仕掛けを常に考えておかなければなりません。実際

演習問題に出題される問題は、その単元の重要ポイントであることがほとんどです。慣れるまでは、どんな問題が出題されているかを確認すること

から、授業のポイントを割り出す方法は大変有効です。

板書ノートは必ず作る

授業の流れを考え、宿題や問題演習の解答を「カンニング」して授業のポイントをつかんだら、いよいよ板書ノートを作りましょう。慣れるまでは、いきなり授業で板書することは無謀と言えます。板書ノートを作成する際の注意点は、①分量が多すぎないか、②無意味な矢印を多用していないか、③重要ポイントにはカラーを使うなどのメリハリがついているか、などでしょう。慣れるまでは、先輩先生に板書ノートをチェックしてもらおうといいですし、ベテラン先生の板書ノートを見せてもらって、自分のノートと見比べると勉強になるでしょう。

第1回

正しい授業準備の仕方

(株)新経営サービス・人事戦略研究所コンサルタント

55